

日本の裏側で

すばらしい日本語の社会が・・・

～第23回日本語スピーチ大会を終えて～

9月3日（土）、パラグアイ・日本文化センター（アスンシオン人造りセンター）で、第23回全パラグアイ日本語スピーチコンテストが行われました。パラグアイ各地にある日本語学校からそれぞれ選ばれた子どもたちが、アスンシオンにある立派な会場に集まりました。

小学校低学年の部は、お話暗唱です。「かきじぞう」や「おむすびころりん」などの文学作品を6歳から10歳までの子どもたちが、表情豊かに語りかけます。まるで落語を聞いているようでした。あと、小学校高学年、中学生、青年、非日系はスピーチです。思い思いのテーマで、これも表情豊かに自分の考えを主張していました。

他の審査員の方は、午前の部と午後の部とに分かれていましたが、私は、審査委員長として、午前の部（小学校低学年、中学生）と午後の部（小学校高学年、青年、非日系）両方の審査を受け持ちました。ということで、審査会場にはほとんど参加できず、結果だけ聞いたような格好になりましたが、審査委員長として、講評をする役がありました。暗唱や音読の大切さ、自分の主張したいことを具体的事実を交えながら明確にして会場全体の人に語りかけるような態度が必要なことを話しましたが、どの子どもたちも優れており、順位を付けるのにはどの審査員の方も苦勞していました。

合わせて、6月にあった作文コンクールの審査結果についての講評もしました。作文も非常にレベルが高く、多くの審査員の方に感動を与えていました。

多くの日本語学校が、スペイン語の比重が大きくなっている現状の中で、「継承語」としての日本語に苦勞しながら取り組んでいます。今、日本でも暗唱や音読の大切さが見直されていますが、ここパラグアイでその大切さを再認識させられました。



レントゲン

歯医者に通い始めています。日本では歯医者でレントゲンを撮ってくれますが、ここでは、別の場所でレントゲンだけを撮ってもらって、その写真をもってまた歯医者に行く仕組みです。先日、予約していたレントゲンセンターのようなどころに行きました。

予約は3時でしたが、バッチリ3時過ぎにはレントゲンを撮ってくれました。どうせ遅れるだろうと思っていたのは大間違いでした。ただ、写真の現像は1日待ってからでした。その場ですぐ結果がわかる日本はやっぱり便利です。ちなみにスペイン語はほとんどしゃべりませんでした。（困った顔をしていたら英語でしゃべってくれました）

